

授業科目	小児看護学概論	単位数	1 単位	講師名	看護教員
		時間数	15 時間		
学年	2 学年		履修期	前期	
授業の目標	1. 小児看護の特徴を理解し、小児看護学について理解を深める。 2. 小児の日常生活について、多目的に理解するために小児の健康生活と行動の基盤を理解する。				
授業内容 (授業計画)	1. 小児看護の特徴と理念・・・・・・・・・・・・・・・・教科書 第1章 1) 小児看護の目ざすところ 2) 小児と家族の諸統計からみた健康課題 3) 小児看護の変遷 4) 小児看護における倫理的配慮 (子どもの権利の変遷、虐待防止) 5) 小児看護の課題 6) 母子保健施策・小児保健医療福祉施策の活用 2. 子どもの成長・発達・・・・・・・・・・・・・・・・第2章 1) 成長・発達とは 2) 成長発達の進み方 (一般的原則) 3) 成長・発達に影響する因子、養育環境 4) 成長の評価 5) 発達の評価 (発達検査、心理・社会的発達の評価) 6) 発達課題と発達理論、アタッチメント・分離不安 3. 乳児・・・・・・・・・・・・・・・・第4章 形態的特徴、身体的機能、感覚・運動・知的機能 (認知)、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、栄養と授乳、親子関係、養育および看護 4. 幼児・学童・・・・・・・・・・・・・・・・第5章 形態的特徴、身体的機能、感覚・運動・知的機能 (認知・思考)、言語・コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 (道徳性)、学習に基づく行動、養育および看護、事故防止と安全教育、感染予防と予防接種 5. 思春期・青年期のこども・・・・・・・・・・・・・・・・第6章 形態的特徴、身体生理の特徴、知的・情緒 (心理) 的・社会的機能、生活の特徴、心理・社会的適応に関する問題、飲酒・喫煙、性に関する健康問題、反社会的・逸脱行動、事故・外傷、思春期の看護 6. 家族の特徴とアセスメント・・・・・・・・・・・・・・・・第7章 1) 子どもにとっての家族とは (親子関係の確立、家族の育児技術の獲得) 2) 家族アセスメント (1) 家族関係・家族構成員 (2) 家族の多様性と構成員の変化 (3) 疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響				
評価方法	筆記試験				
注意事項	少子化、母親の就業、ライフスタイルの変化、小児虐待など現代社会の課題について関心を持ち主体的に情報を収集する。				
教科書	1. 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 2. 国民衛生の動向・厚生指の指標 (一般財団法人 厚生労働統計協会)				
参考図書					

授業科目	小児保健	単位数	1 単位	講師名	看護師
		時間数	15 時間		
学年	1 学年		履修期	後期	
授業の目標	子どもの生活習慣病、心の問題、育児不安、虐待など子どもを取り巻く社会や家族の現状と施策を理解する。				
授業内容 (授業計画)	<p>1. 幼児の健康増進のための看護</p> <p>1) 幼児の健康増進と安全な環境の提供</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>(2) 食生活と栄養</p> <p>(3) 自我の発達と遊び</p> <p>(4) 予防接種</p> <p>2) 幼児と家族</p> <p>(1) 家族関係と社会化</p> <p>(2) 食育</p> <p>2. 学童の健康増進のための看護</p> <p>1) 学童の健康増進とセルフケアの発達</p> <p>(1) セルフケアと保健教育</p> <p>齲歯・近視・スポーツ外傷の予防</p> <p>(2) 食生活と食育</p> <p>(肥満や食生活の乱れ)</p> <p>(3) 仲間との関係や学校への適応</p> <p>(4) 学習と遊び</p> <p>(5) 生活習慣病の予防</p> <p>(6) 第2次性徴</p> <p>2) 学童と家族</p> <p>(1) 学童の情緒と仲間や家族との関係</p> <p>(2) 学童を取り巻く社会環境</p> <p>(3) 学童の問題行動と対応</p> <p>3) 学校保健</p> <p>学校保健安全法、学校環境衛生、健康診断、健康相談、感染症対応</p>		<p>3. 思春期の小児の健康増進のための看護</p> <p>1) 思春期の小児の健康増進とアイデンティティの確立</p> <p>(1) セルフケアと保健教育</p> <p>(2) 食生活</p> <p>(3) 親からの自立</p> <p>(4) 異性への関心</p> <p>(5) 生活習慣病の予防</p> <p>(6) 第2次性徴</p> <p>2) 思春期の小児と家族</p> <p>(1) 情緒的变化と家族関係</p> <p>(2) 小児を取り巻く社会環境</p> <p>ライフスタイルと生活リズムの変化</p> <p>(3) 小児の性意識の変化と逸脱行動</p> <p>(4) 小児の問題行動と対応</p> <p>・喫煙・飲酒の防止</p> <p>・不登校の実態と支援</p> <p>・いじめ・校内暴力の防止</p> <p>・自殺の防止</p> <p>概論・・・6, 7, 8</p> <p>総論・・・8</p>		
評価方法	1. 筆記試験 2. 課題提出				
注意事項	特記なし				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)				
参考図書	特記なし				

授業科目	小児健康論	単位数	1 単位	講師名	医 師
		時間数	30 時間		
学年	2 学年		履修期	前期～後期	
授業の目標	1. 小児の成長・発達について心身の構造や機能を理解する 2. 小児期の主な疾患について原因・治療・検査を理解する				
授業内容 (授業計画)	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常（形態的発達と異常） 2. 新生児の疾患 3. 代謝性疾患 4. 内分泌疾患 5. 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 6. 感染症 7. 呼吸器疾患 8. 循環器疾患 9. 消化器疾患 10. 血液・造血器疾患 11. 悪性新生物 12. 腎・泌尿器および生殖器疾患 13. 神経疾患 14. 運動器疾患 15. 皮膚疾患 16. 眼疾患 17. 耳鼻咽喉疾患 18. 精神疾患 19. 事故・外傷と看護 <p style="text-align: center;">★テキスト1（第1～19章）</p> 20. 救急蘇生法 <p style="text-align: center;">★テキスト2（P.468～）</p>				
評価方法	筆記試験				
注意事項	特記なし				
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）				
参考図書	特記なし				

授業科目	小児看護学援助論	単位数	1 単位	講師名	看護師・看護教員
		時間数	30 時間		
学年	2 学年		履修期	後期	
授業の目標	1. 子どもの成長・発達が支援できる看護実践を理解する 2. 子ども、家族と看護者がパートナーシップを形成していくことを理解する				
授業内容 (授業計画)	(15 時間)		(15 時間)		
	1. 子どものアセスメント：テキスト 1 1) アセスメントに必要な技術・・・第 4 章 A (1) コミュニケーション (2) バイオフィン (3) 身体計測 2) 身体的アセスメント (1) 一般状態・・・・・・・・第 4 章 B① 2. 症状を示す子どもの看護：テキスト 1 第 5 章 1) 呼吸困難 2) 痙攣 3) 発熱 4) 発疹 5) 下痢 6) 嘔吐 7) 脱水 8) 疼痛 3. 検査・処置を受ける子どもの看護：テキスト 1 - 第 6 章、テキスト 3 1) 薬物動態と薬液量 2) 与薬 (経口、座薬、注射、輸液療法) 3) 経管栄養 4) 浣腸 5) 採尿 6) 採血 7) 吸引 8) 吸入 (酸素、薬液吸入) 9) 気管内挿管 10) 骨髄穿刺 11) 腰椎穿刺 4. 小児特有の疾患とその看護：テキスト 2 1) 低出生体重時の看護 (出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護：ハイリスク新生児、集中治療の特徴、親子・家族関係の確立への支援) 2) 糖尿病の小児の看護 3) 気管支喘息の小児の看護 4) 肺炎の小児の看護 5) ファロー四徴症の小児の看護 (先天性疾患のある子どもと家族へ看護：子供の疾患に対する家族の理解と受容) 6) 川崎病の小児の看護 7) 腸重積の小児の看護 8) 白血病の小児の看護 9) ネフローゼ腎炎の小児の看護 10) 感染症の小児の看護		1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護：病気に対する子どもの理解の特徴と要因、発達に応じた説明 (インフォームド・アセント、プレパレーション)、心身障害のある子どもと家族への看護 テキスト 1-第 1 章 1) 病気や診療・入院が子どもと家族きょうだいに与える影響と看護 2) 子どもの健康問題と看護 2. 子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護：第 2 章 1) 入院中の子どもと家族の看護 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 活動制限が必要な子どもの家族への看護 2) 外来における子どもと家族の看護 トリアージ、感染対策、緊張不安緩和、健康診査・育児相談 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 医療的ケアを必要としての退院 4) 災害時の子どもと家族の看護 3. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 小児慢性特定疾患治療研究事業、セルフケア 2) 急性期にある子どもと家族の看護 急性症状、救急救命処置と看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 痛みを表現している子どもと家族への看護 4) 終末期の子どもと家族の看護 (緩和ケア) 子どもの死の理解・看取る家族の反応と看護 5) 虐待を受けている子どもと家族への看護 4. 小児の看護過程の展開 1) 気管支喘息のある子どもの事例で看護過程の展開を行う		
評価方法	1. 筆記試験 2. 課題レポート (看護過程の展開)				
注意事項	1. すでに既習している看護過程の基礎、小児看護学概論、小児健康論、小児看護学援助論での学びを統合させ学習していく必要がある。 2. 看護過程の展開に関する講義時間も含まれているため、自己学習が中心となる講義である。したがって、学生自身が主体的に計画的に学習を進めていくことが鍵となる。				
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 (医学書院) 3. 写真でわかる小児看護技術アドバンス (インターメディカ)				
参考図書	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) その他必要時、講義の中で紹介する				